

ゆるも

第拾壹卷

第壹號

フ
レ
ー
ベ
ル
會

第拾壹卷第壹號目次

- 家庭と子供の戯け 中川謙二郎
- 早蕨幼稚園の保育 久留島武彦
- 關西の保育界を見る 和田良實
- 幼兒の笑顔 源 井 良
- みかんの話 保 井 良
- 松の話 磯 川 生
- 保育叢話 光 藤 フ
- 保育の實際 野 口 幽 香
- △種子の採集 山 下 つ や
- △毎朝のお話 鈴 木 ま さ
- △體育と衛生 倉 橋 惣 三
- 机邊だより
- △クラーク大學の兒童研究事業
- △タンネル氏の「保育上の三注意」
- △パルマー氏の「保育法の基礎としての發達の原理」
- 摘 録
- 雜 報

フレーベル會規則

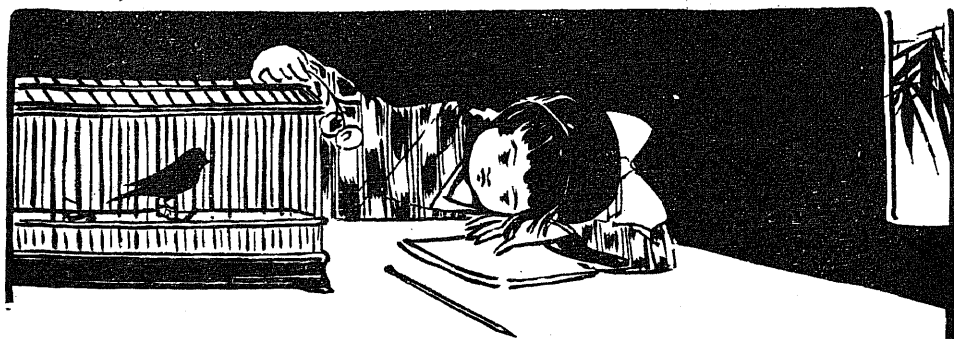
- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルニシテモハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ納出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品、幼兒成績物展覽、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス
 - 一 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ
 - 一 保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 一 組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
 - 一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 第八條 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 會長 會務ヲ總理ス
 - 一 幹事 會務ヲ補助シシテ會務ヲ掌理ス
 - 一 評議員 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 一 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
 - 一 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 一 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
 - 一 第十條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
 - 一 第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

購 讀 の 申 込

(振替口座東京)
一七二六六番

本誌を購讀なされたき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分なま
とめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。

- ◎一冊郵稅共金拾一錢
- ◎六冊前金郵稅共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増



第拾壹卷第一號

家庭と子供の躰け

會長 中川謙二郎

家庭と學校とは相俟つて始めて教育の効果が完ふせらるゝものであることは、今更事新らしく云ふ程のことではないが、併し、實際はいつ迄も新しい問題である。我國の家庭は未だ學校の教育を助長することに於ては極めて力が薄い。事の眞偽は知らないが新聞などの報導する所に因れば上流社會の家庭が殊に善くない様である。家庭が少しでも悪ければ學校の骨折は家庭で破壊されて仕舞ふ。殊に德育の如きは人倫道德の要旨其ものは學校に於て授けられはするものゝ、其實行的練習は何うしても家庭が根本である。或は、世には學校の價值を非常に豪らく見過ぎて居る人がある。何んでも學校へさへ遣つて置けば夫れで、もう、何の心配することも要らぬ。學校で學問さへ覺えて來れば夫れで人間は立派

に出來上るものと考へて居る人がある。そして家庭と云ふものが徳育上如何なる重要な位置にあるかと云ふこと、延いては兩親と云ふものが子供の徳育、殊に實行的徳育平たく云へば子供の躾け方の上に、如何なる大勢力を持つて居るものであるかと云ふことを一寸も自覺して居らぬかの様に見えるものがある。飛んでもない誤りである。學校が教育上大切なる位置にあると同時に家庭も亦同様に大切な位置を占めて居るものである。學校と家庭とは何うしても協力しなくては充分の効果を上げ得るものではない。

家庭が學校の仕事に共同し援助をする重要な點即ち家庭教育の最重要點は子供の躾である。躾と云ふのは所謂「仕付」或は「爲慣け」で有形的な作法其他の行爲を始め無形的には正直親愛などの精神的傾向の爲し慣るゝ結果一つの習慣となるものを云ふので然る可く學校の教授と歩調を揃へて品性陶冶の上に貢獻しなければならぬものである。

然るに廣く世間の家庭の様子を見ると子供の躾をするのに或は寛大にして子供は成る可く其自然の儘に放任して置くが善い。なまじに子供の自由を妨げ其自然の發達を害ふことは面白からぬことであるといつて甚だしきは子供の放縱を許し其虚言や背信の所行さへも放任して置くものがあるかと思ふと一方には箸の上げ降しにも一々に干渉して事毎に抑制と注文とを發するものがある。斯る人は子供の力を認めて遣ると云ふことがないからして詰らぬ事迄も子供の爲に力を貸して遣る。轉んだと云つては起して遣り靴の紐が解けたと云つては結んで遣る。傍から見て居ると祖父母や兩親の愛が溢るゝ許り現はれて居る様で頗る美しき有様には見えるが、偕て其子供は果して如何なるものになるかと云ふと、自信なく依頼心強く、誠に意氣地なき弱行のひとより外はなれぬ。學校が如何に骨折つて意志の強固な自信力のある大丈夫を養成し様と思つても何の役にも立たぬことになつて

仕舞ふ。然ればと云ふて前者の様に全く子供の成り行くが儘に任かして何等の干渉も試みぬと云ふのも之も如何のものであらうか。我輩は餘り賛成が出来ぬ。成程、家庭に於ける子供は其他の何處に於けるよりも最く善く自然である。全く子供は家庭に於て最も善く天真爛漫なものである。此自然の有様、此天真爛漫は決して妄に破壊す可きではない。云ふ迄もなく妄に子供の行爲に干渉するとは決して子供を子供らしく幸福ならしむるものではなくて却つて之を苦しめ、之を不快ならしめて遂には之をして早熟せる小さき老人たらしむるものである。併しながら之が極端に行つて虚言を吐いても取締りをせず約束に背いても責むるものがないと云ふ様になつては其來る可き結果は實に寒心す可きものである。我輩は勿論、子供の自然の行動に干渉することを好むものではないが然りとて無論、絶體的放任論には不賛成である。然らば家庭に於ける子供の躾は如何に之を陶冶す可き

かと云ふに先づ大體に於て成る可く子供の自由を許し或度迄は自主自立を獎勵して自らの不可能なることの外は決して人手を借らざらしむると共に其行爲にして一朝虚言又は背信の如き不徳たるものか又は衛生上危害あるものならんには一歩も假借する所なく之を取締らんことを要す換言すれば子供の行爲は後來其子供を惡行爲に近かしむる恐あるか若しくは生理的危險ある者は顧慮する所なく之を嚴禁し害なき方面有益なる傾向は成る可く自然の發達に任すを以て最も策の得たるものと信ずるのである。彼の上流の家庭に不甲斐なき子供を出すこと多きは餘りに嚴重なる干渉の結果にして、軍人の子供に放逸にして箸にも棒にも掛らぬ腕白ものを出すこと往々にして之あるは餘りに其家庭に於ける躾方を自由にしたるが爲めである。由來子供の理想的發達と云ふものは、何うしても悠然としてこせつかぬ中に眞面目で、正直でそして背信の所行、表裏ある様な行爲は如何にしても

出来ぬと云ふ様な堅固な道徳を有して居るものでなければならぬ、世の母親たるもの、希くは一段の奮發を以て此の如き完全なる發達を有する理想の子供を得られんことを。是れ決して吾輩一人の希望のみではない。實に國家社會の一大要求である。恐くは本誌を愛讀せらるゝ會員並に讀者諸君の要求と雖も之に反對せらるゝものはないからう。職に幼児教育に關係せらるゝ方々は常に此心を持つて幼児に對すると共に又常に此心を以て世の母親たるものに説き聞かせて。我國の幼児教育をして益々美ならしむると共に一層合理的に完全なるものたらしめんことに盡力あらんことを希望に絶えぬ。

久かたの月の桂も折るばかり

家の風をも吹かせてしかな

(道真母)

早蕨幼稚園の保育

早蕨幼稚園長 久留島武彦

私は、子供と云ふ者を研究するに參考として、子供の自由遊戲所と云ふやうなものをもつて見たいと云ふ望みで、此の園を開きました、そして、その遊んで居るのを見て、その特質を知り、如何に子供に話すべきか、如何に子供と楽しむ事が出来るかと云ふ事を実験する、申せば此の園は研究所で御座います。けれども、私の研究所は、他の児童心理を學問として研究せらるゝ方々の如き意味の研究所ではありませぬ。私に此の園をもたせてくれた人の考も、私の目的も、以上の如きであります。それで、保育上の意見と申しまして、白狀すれば、悪しからぬ方面に保育するといふことが、自分の責任と心得て居るばかりです。

保育實施の方針

けれども、そればかりでは、世間へ對して相すみ

ませぬ。それで、悪しからぬ方面に保育すると同時に、善き方面にも保育したいと思ふて居ります。それで、順序として、最も確實なる素養ありと認めらるゝ、お茶の水の保姆養成所を出られた方をお頼みして、一切をお任せしてあります。私は、保姆の方に申して居ります。あなたが善いと認めたる事は遠慮なく實行して下さいと、そして玩具の買入れ、運動具の買入れ、凡べて保姆に一任してあります。

世間の幼稚園を見ますと、保育の要項に縛られて居る保姆が多いやうに思ひます。今の流行語で云へば、恩物に捕はれたる保姆が多いやうに思ひます。殆んど豫案と云ふものに由つて終始して、兒童そのものに由つて終始することがないやうに思ひます。たとへば、土曜日には、豆細工と定めてあれば、子供が好まうが好むまいが豆細工をする、その次ぎは唱歌なら唱歌と云ふ如き類です。しかし、私は、さう云ふ事は何となく面白く感じ

ないから、自分の幼稚園は、必要と認める限りは、恩物も玩具も準備しましたけれども、それを引き渡す時に、保姆にお願ひしました。以上の如き私の考へであるから、恩物に捕へられずにやつていたいきたい、そして保姆は、如何なる考へで、子供を扱つて居るか、と、參觀者から思はれる位、自由な態度で、子供に接觸してもらひたい、そして、なるべく室内よりも戸外、戸外よりも郊外に連れていつて下さいと。

要するに、私は、恩物にも、保姆にも捕へられざる、自由なる保育方法を研究したいと思ふて居ります。まだ研究中ですから、如何なる方法が、そのベストであるかと云ふ事は、お話し出来ませぬ。只、音楽と遊戲の調和、これは、自分が進んで實行したいと思ふて居る事でありませぬ。一體、日本の家庭は、音楽趣味が少ないと思ひます。そして、子供は歌はない動物かと云ふに、決してさうでありませぬ。子供ほど歌ふ動物はあり

ませぬ。子供ほど躍る動物はありませぬ。少し機嫌がよくなると、直に言葉が旋律的になり、動作が舞踏的になります。活き々々した子供ほどさうであります。これを、つとめてよく導き、つとめて、よく活かしめたならば、よほど大なる教育の基礎を入れるものでないかと思ふて居ります。子供の如く楽しく、子供の如く愉快に、無遠慮に躍りまわると云ふ事は大人にはよほどむづかしい事であります。たまに、之れをなし得る保姆があつても、それは、あまり仰山だとか、今少し静に保育することは出来まいかと云ふやうな批評を受けます。これは甚だ遺憾なことと思ふて居ります。故に、私の幼稚園では、保姆に、小鳥の如く楽しく歌ひ、小犬の如く楽しく遊ぶことを望んで居ります。私は、楽しく愉快にと云ふことは保育の最も大切な要件と思ふて居ります。

現在の實行

それで、私の幼稚園の保姆には、かう云ふ事を申

して居ります。もし不愉快なことがありましたなら、遅刻をしてもよいから、園の門をくいるまでに、不愉快の原因を取り除いて来て下さい。園の門をくいる時には、愉快に笑ふて居てもらひたいと。

それから、今一方の方面から云ふと、兒童は、各機能の發育が不具的であります。たとへば、胴體がむやみにのびるとか、體量がむやみにふえると、想像力が大層發達するとか云ふやうな風です。それで、身體の注意と云ふことに殊に重きを置きたいと思ふて居ります。それで特に小兒科専門の醫者に頼んで、一週に一度づつ、健康診斷をして貰つて居ります。それから、毎月一回づつ、細密な體格検査をやつて居ります。園の者の注意としては、必ず毎朝子供が園に來たならば、子供の額に手をあて、熱がありはせぬか、どうか見ます。(時として、家庭の不注意で、發熱の子供をよこすことがありますが)一日に二三度はかう云ふ風

に注意して居ります。

されば、私は、只今の處、まづ子供は、怪我をせずには、丈夫に元氣で遊んでくれるならば、能事終れりと思つて居ります。

園長として考へますことは、私が如何に以上の如き考で居ても、保母がその考になつてくれなければ仕方がない。また、保母が如何に善い意見を持つて居ても、園長がそれを飲み込まねば到底實行せらるゝものでないといふ事です。園長と、保母とが研究して、多數の意見のまとまつたものが、保育の方針として實行せらるゝと云ふ事にならねばならぬと考へます。それで、保母は、つとめて園長を教育する、園長は、つとめて保母の意見を聞くといふ事にしたいと思ふて居ります。

(文責記者)

腕白が先づ手のひらに筆始め(一茶)

關西の保育界を見る(承前)

和田 實

前々號に於て予は關西幼稚園參觀記を物して其第一日を終つて置いた。それで前號に於ては其第二日を掲げる心組で居つた所が公務殊の外に多忙なのと家庭に病人などがあつたので、心ならずも執筆しなかつた。併し、忙しいのと暇のないのとは歌に唱つて居た所で誰れも暇を呉れる人もないから本號には奮發して簡單に其第二日を叙して以て兎も角も此項の終としようと思ふ。叙述が頗る乾燥で面白味のないのは讀者諸君も定めし物足らず御思召さるゝであらうが今回は是で御免蒙るとしませう。

偕て予が參觀第二日目の朝は數日來の疲勞で思はぬ朝寢をして午前八時漸く寓所を飛び出した電車を驅つて梅田に行きそれより阪神電鐵に因て神戸にと向うた。目的は本邦幼稚園界の恩人エ、エル、

ハウ女史の經營せらるゝ頌榮幼稚園を參觀せんためである。蓋し同氏は本邦に於て幼稚園の爲めに盡さるゝこと既に二十餘年、其附屬の保母傳習所を出でたる人は今や廣く全國に亘つて其一流の保育法を普及せしめて居る。我國に米國式、シカゴ式の保育法の能く普及して其他の流のものと互に對峙して我保育界を賑はしめて居るのは實に同氏の力與つて大なるものと云はねばならぬ。殊に大阪の保育界を見んとするものは其一般の保育法の大體相似かよつて居る中に超然としてハウ氏獨特の所謂、シカゴ式保育法を實施しつゝある此幼稚園を見ないと云ふことは阪神保育界に對する敬意を缺いたものと云はねばならぬ。余は余の僅かな參觀日數の中より惜氣もなく九半日の時間を是が爲めに割いたのは一に關西の保育會に對する參觀者の義務を果し、一つはハウ女史に敬意を表せんが爲めであつた。併し思はぬ朝寐に時間を空費して頌榮幼稚園の門内に足を入れしは同日午前十

時を打ちたる所であつた。直に入つて刺を通じて參觀を乞ひたるに折悪しくハウ女史旅行中にて保母養生所主任某(尊名を逸す)氏應接せられた。折柄、幼兒は自由遊びより室内一齊作業に移らんとする時であつた。室内の作業は翌十一月三日のお祝いの爲めに日の丸の旗を作ることであつた。で、早速先づ之を拜見することにした。其方法は先づ豫め用意したる白き地紙と赤の丸き打ち抜きと細竹と並に小許の糊とを與へられた。先生は先づ地紙を前に置かせ次に日の丸を其上に適當の位置に置かせて之を訂正し其正しきものより順次其位置を地紙の上に印し付けて遣り次に糊を以て之を地紙に貼り付け最後に細割竹を與へて之を完成せしめて居つた。次には遊戲即ち唱歌遊戲が始まつた。其唱歌が皆是悉く意味あるもので主として道德的であつた。そして其調が如何にも唱ひ惡い、少くも日本の樂曲を喜ぶものには異様に感ずる様な抑揚があり旋律があつて歌詞が付き悪い様

な感じのするものであつた。云はゞ悲哀の訓の多い耶蘇風の、教會風のものであつた。是は何處の幼稚園でも西洋人の經營せらるゝ處では共通の特色である。遊戲は鳩、鯉、等二三のものと村の鍛冶屋及體操と行進とであつた。何れも全幼兒を方に並べて置いて其中より數人の演者を出し他は多くは歌を唱ふか若しくは見て居るのであつた。村の鍛冶屋と云ふのは歌を唱ひながら數名が鍛冶の眞似を爲し金物を注文せしめたる幼兒に之を與へると云ふ筋で、極めて穩かなものであつた。模擬體操は別段變つたこともなかつたが行進は割合に歩訓が取れなくて何時も樂器が拍子早になつて居つた。打ち見たる所其遊戲が凡べて獨特の創造で色々工夫されて居ることは誠に敬服すべき所である。そして遊戲や、手工の間に幼兒が保母の命を行はないうで勝手なことをしたり手徒をしたりするのを叱かる所は多少壓制ではあるが兎に角其叱り方が多くの幼稚園で見る様なお形式の叱責で

なくて保母の衷心よりして之を嫌ひ拒む所の表情が充分なので、頗る教育的であると言ふ感じを得た。概して外國人の小言の云ひ方は日本の小學教師に見る様な口數多き弊害と云ふものがなくて、頗る嚴格で眞面目であるから子供が能く之に服従する様に思はれる。此點は特に幼兒教育者の學ぶ可き所であらうと思ふ。

遊戲が濟むと一同晝食に取り掛つた。此間余は主任の人より本年中に於ける保育の豫定題目を聞いた。左に記するものが即ち夫である。

- | | |
|----|--------------------|
| 一月 | 宗教と科學（世界創造のこと、日月昌晨 |
| 二月 | 動植物、時、年、等） |
| 三月 | 禮拜（服従、攝理、仁愛） |
| 四月 | 復活（生命、植物、動物） |
| 五月 | 國家（歴史、日本、獨逸、英國、米國） |
| 六月 | 工藝（鑛山、鍛冶、舟、機關） |
| 七月 | 同（石工、建築） |

八月 休み

九月 農夫の働き (六月に植えたる稻の觀察、

稲作、天氣表)

十月 農夫の助手 (家畜、農具)

十一月 收穫 (米、菓物、落葉、野菜と感謝祭)

十二月 冬眠 (クリストの話、古來の話)

斯る豫定の下に凡ての保育を統合して一方に直観的に模倣的に是等の事物を知らしむると共に之をして幼兒の腦中に於て統合する所あらしめ悟る所あらしめんとするものは即ち米國シカゴ派の所謂新式保育法である。豫定の整然として立派なる恐くは見る人をして喫驚せしむるであらう。併しながら統合主義が教育學上如何程の價値を有す可きかは既に定評のあることで今茲に之を事新らしく論ずる迄もない。従つて是が幼兒への課程法としては餘りに高尚に失するの嫌あることは云ふ迄もないことである。勿論、高尚なることを卑近に話すのが保姆の技量には相違ないが、併し、之を

幼兒に適切なる迄に卑近にして仕舞つては到底斯る高尚な整頓したる思想を吹き込む譯には行かぬことゝなつて矢張り實際は平凡なことをするに過ぎぬことゝなつて仕舞ふ。由來、幼兒の頭腦中に整頓したる大思想を作らうとすることが抑も幼兒教育の目的以外に逸したこと、小學校以上の教授目的を幼兒教育に横取して來たものと云はねばならぬ。幼兒の直観は何處迄も直観でよいのである。之を直観以上に大悟する所あらしめんとするなどは余をして云はしむれば實に一個の空想に過ぎぬ。吾人は頌榮幼稚園が我國幼稚園界に貢獻せられたる功績を感謝するとは云へ其保育法の統合主義には賛成する譯には行かぬ。米國の如き教育學の不完全なる所に於ては斯る統合主義も或は識者の研究題とならんも計りがたけれど我國の如き十數年の昔に於て既に此問題に遭遇したるものは今事新らしく此主義の研究に力を盡すの必要もなからん。勿論、保姆の便宜の爲めに、又は保育者の

面白半分おもしろはんぶんに時に斯かる豫定よていを作製さくせいすることは敢あえて悪あししとも云いへぬ。併ひかしながら之これを以もつて爲しなければならぬものと考かんがふるは如何いかなものであらうか。斯く云いふと或あるひは吾人ごじんを以もつて保育ほいくに統合とうがふなしとするものと誤認ごにんせらるゝ方かたがあるかも知れぬ。併ひかし、是は誤りである。吾人ごじんは固もとより絶體的ぜつてきに非統合主義ひとうがふしぎを主張しゅちやうするものではない。唯斯ただの一時的いちじの無理なる統合とうがふを排はいするものである。米國流まいこくりゆうの統合とうがふは一時に是非ぜひとも統合とうがふして仕舞しまはんとする所に無理無理がある。従したがつて容易たやすくは直觀ちくくわんし能あたはざること迄までも一時に知しらしめんとして苦心くしんして居る。之これが此主義このしぎの誤あやまれる主なる點てんである。人の思想しきうの充分じゆうぶんなる統合とうがふ的整理てきせいりを得るは青年期せいねんきであつて決して幼年期えうねんきではない。統合主義とうがふしぎが若し行ふ可おこなべば青年期の教育けいいくに行ふ可おこなくして決して幼年期えうねんきに強ゆ可おこなきではない。是が吾人ごじんの此主義このしぎに賛成出來さんせいできぬ所以ゆゑである。イヤ、參觀さんかんに來て居ながら餘計よけいな議論ぎろんをしだ。議論ぎろんはしても決して我國わがくにに於けるハウ女史ぢやうしの功績こうせきを

忘わすれはしない。女史ぢやうし希こくは吾人ごじんの非禮ひれいなる咎とがめず。益々ますます斯道しきだうの爲ために盡つくされんことを。偕さて之で頌榮しょうえい幼稚園えうちゆうえんの大體だいたいを拜見はいけんすることが出來たが、序ついでにとて保姆傳習所ほふでんしよの教科書けくしよを御尋おたづねしたらばフレーベル先生の「人の教育」及福來博士ふくらいはかせの「心理學精義」が主なる教科書で他は口授こうじゆであるが別段教育學べつだんけいいくがくは授けて居らぬさうであつた。時は遠慮えんりよなく過ぎて午後は一後に近づきさうである。因よつてつて主任しゅにんの方に應接說明おうけつしめいの勞を感謝かんしやして此處をば出で、直ぐ近邊なる市立神戸幼稚園しりつかんべんしんとうちゆうえんを訪問ほうもんした。新築後間しんちくごかんもなき立派な幼稚園で遊園は然して廣しとにはあらねど室内の稍廣々としたる。天然の崖がけを利用して花壇くわだんとしたる。湧き出づる泉を池に溜めたる中々に見所あり。急ぎたれば暫時にして此處をば出で園長望月氏の案内にて先頃の戦役に紀念として創設せられたる托兒所を拜見した。折柄大きな子はオルガンの音に連れて半ば遊戲し半ば見物して居た。別宗に至れば當才の嬰

兒は孤々として搖籃の中に泣いて居るのがあつた。看護の人の深切に之を世話する様は實に々々世の美觀である。余は我知らず衷心より多大の敬意を以て恭しく一輯するを禁ずることが出来なかつた。頓がて茲をば辭して、次には兵庫幼稚園を唯園舎丈拜見した。是より轉じて原田村なる松壽幼稚園の園舎丈も拜見したいと思つた所が時既に四時を過ぎて居る。然るに夕刻六時には豫て大阪府女子師範學校長大村芳樹氏と約あり同校に於て一場の講演をしなければならぬ。因つて止むを得ず。又の時を期して之を略し直に汽車にて桃山に向つた。學校に着いたのは約束の時を過ること卅分で茲に暫く乾燥な理屈談をこね廻はし大村校長よりは意外なる歡待と御饗應とを受けて宿所に戻つたのは正に午後九時であつた。

翌第三日は天長節で學校の子供のこゝと往來する中を余は車を驅つて先づ江戸堀幼稚園に行つた。主任膳たけ氏の自然物利用を以て成功し居ら

る、様を拜見し利用せる廢物を分け乞ひなどして急ぎ次の豫定園なる日吉幼稚園に向ふ。是より下福島、管南の二園を経て最後に北大兄幼稚園を訪問し、宿直の先生を煩はして其有名な遊戯室の壁畫を拜見した。聞きしに優る大きなものに深山の幽邃なる邊より谷川の激奔する景、さては長汀曲浦の美しき眺め大洋上の壯絶なる怒濤の様など流石に我園にもと羨しき感じした。

茲を辭して出づれば時既に午後三時急ぎ宿に歸りて行李を修め夕刻發の列車にて東歸の客となつた。

以上三日間の參觀、名は參觀なれども實は何處も唯通り過ぎるに園舎をのぞきしに過ぎず。而も至る所に妄評を逞して今尙背に汗を覺ゆ、記述する所或は誤なきを保せず。乞ふ諒せられんことを。

幼児の笑顔

文學士 源 良 英

幼児の笑顔は實に無邪氣な神々しい表情であります。こんな麗しい表情を古來精密に研究したものが尠ないのは誠に遺憾な事だと思ひます。只兒童心理學の大家ブライエル氏が多少精密な觀察をして居りますから、今氏の説を骨子として、それに時々他の學者の研究を挿入して次に述べやうと思ひます。

幼兒は生れて後、幾日目から初めて笑ふかといふ事に就ては、屢々あやまつた觀察を下すものが多いのであります。幼兒が口角を引上げるのを見て直ぐに微笑を洩して居ると云ふ人もありますが、それは決して笑ふのではなく、丁度吾々成人に於ても口を歪めることと微笑とは、まるで無關係の事があるのと同じ様であります。この口角を引き上げることは一般に満足な感じや、氣持のいいこ

とを示す表情であります。此等の單純な感じは、只顔面神經の興奮を引起す丈で、微笑を洩す様なことはないのであります。

殊に生れてから餘まり日數のたゝない子供に於ては、快感と結びく様な感覺は非常に僅かで、言語の意味から愉快を感じる様なことは勿論あらう筈がありません。母親の乳を飲んだり、暖かい寢床に寝たりして満足してをる子供も、生れた初めの日には微笑を洩す様なことはなく、只満足な顔付を表はして、口角が少しく引上げられるのを見るばかりであります。若し世人がこの顔付を以て微笑と名付けますならば、眠つた乳呑子は非常に早くから笑ふと言はなければなりません。何となれば私の子供は生後十日目に睡眠中恰も微笑の際の様な口付をし、頬には唇ができ、眼は閉ちて居るが全體の顔付が非常に愛らしく見えました。十二日目には覺醒時に於ても、時々顔面の筋肉が活潑に動く様になりました。明かに微笑の顔と名付

くる事の出来る様になりました。しかし此表情には微笑を完全にするに必要な意識を缺いて居ることは、恰も前に述べた睡眠中の笑ひと同一であります。二十六日位になつて子供の感覺と共に伴ふ感情との區別が一層よく出来る様になります。と、微笑は一の模範的表情となるのであります。幼兒が充分に乳を飲みますと眼をパツチリ開き、其後に半ば閉ぢ、何とも形容し難い満足な容貌を表はしまして、喜んで居る母の顔の方を眺めます。しかし喜びの調子に適する音聲は少しも聞えませす、尙又母の顔や母の胸などの知覺は勿論ないのです。此際笑の模倣も亦起りませぬ、何となれば此時の子供は無生物を見ても笑ふものでありますから、四ヶ月以前には模倣的運動は決して起らないと斷言して宜しからうと思ひます。

初期の笑の運動や、此比較的完全な笑は共に満足の状態と密接に關係してをります、これは苦痛の際の叫聲と同じ様に、祖先以來傳はりて來たも

のと考へても差支ありますまい。又子供は他より笑ひかけられると常に笑ふときまつては居りません。少しも子供の見た事のない他人がニコ笑つて來ても、子供は笑ひたい様な、眞面目な様な不思議な顔付をなすものであります。だから子供の最初の笑なるものが、後年になりては只一片の挨拶の爲に形式的に笑ふ様に發達變化する事は到底考へられ相もない様に見えます。

機嫌のいい時や、又睡眠中に新しい愉快な、満足之感によりて生ずる微笑は、後年まで繼續するものであります。乳兒が満足する場合、例へば私の子供に生後八週目に音楽を聞かせました所が、眼が非常に光輝を増し、手や足の運動が活潑となり、微笑或は哄笑を明かに表はしました。

この愉快、満足の時に微笑を初めて呈するのは、生後幾日目であるかといふ事は觀察者によりて多少相違がありまして一定して居りません。ハイフエルダー氏は幼兒が生後四週間に満足の表情

として、初めて微笑を洩したと述べて居るし、チャムブネース氏は六週乃至七週目に、ダーウイン氏は七週乃至九週目に、シギスモンド氏は七週乃至十週目に初めて幼児の笑ふのを見たと言ひ居ります。(譯者曰、日本の子供では安田氏の觀察した男の子は生後三十四日目及び三十五日目に初めて笑ひ、關氏の女の子も亦三十四日目に笑ひました、しかし澤山氏の觀察した女の子は四十四日目に笑つたやうであります。)

幼児が鏡面に寫れる像を見て初めて笑ひましたのは二十七週目でありますが、十週目に笑つた子供もありません。しかし後の子供は其後十七週目までは少しも笑ひませんでした。哄笑になると微笑よりも、ずつと後に表はれるもので、私は百十三日目までは鏡を見て笑はなかつた子供が、百十六日目になりて哄笑を發したのに驚きました。(譯者曰、マンテガツア氏の子供は微笑は生後四十日目より六十日目に見られたが、哄笑は三ヶ月後に表

はれたと言ひ、ダーウイン氏も子供の哄笑を百十三日目に見たと述べて居ります。だから哄笑は微笑から漸次に發達したものであるといふ説をなすものが多いのであります。この通り鏡を見て笑ひますのは、珍らしい像に就て知覺したのを喜んで笑ふのでありますから、表象に伴ふ笑であります。大に發達した形式であります。十四週目位になりますと、味のいゝものを食つたり、肌さばりのよい暖かい衣服を着たり、氣持のよい音を聞いたり、或は腹一杯に乳を飲んだりした時には、笑を引起すもので、折々高い聲を出して笑ひます。子供は感じが鋭敏でありますから、少し氣持のわるかつたり、腹が減つたりしますと、決して笑ふものでありませんが、其等の不快感が取去られると、すぐに口角を引上げてニコ／＼笑ふものがあります。(譯者曰、それだからカークバトリツク氏は幼児の笑の原因は一に有機的であると申して居ります。)

微笑から漸次哄笑へと移りて行くもので、謂はゞ
 哄笑は強度の強い、音聲の高い微笑であります。
 愉快な感官刺激の爲に生ずる最初の哄笑は、かの
 滑稽な事を知覺する際に生ずる、自我感情の昂ま
 るのと全く別物でありまして、殆んど生後六週乃
 至十七週目位に表はれるものであります。プリニ
 ユース氏は子供が生後四十日位經過しなければ、
 哄笑は無いと云つて居りますが、私の子供は二十
 三日目に眼が光る計りでなく、明かに哄笑の表
 情を示しました。即ち此際子供は其前にある淡蓄
 薇色の幕を見て非常に喜び、一種特有の満足の叫
 聲を發し、且つ口角が引上げられるのを見ました。
 此時また入浴をさせましたが、其際は少しも哄笑
 を表はすことなく、只眼を大きく開いて満足の容
 貌を示すに過ぎませんでした。其後哄笑は重に快
 感が高まりました時の表情となりまして、例へ
 ば五週乃至六週目及び八週目には奇麗な色に光り
 て居るものが穏やかに振動するのを見たり、又は

翼琴の演奏を聞たりする際に此種の哄笑が屢々表
 はれました。
 六週目乃至九週目に子供が母親の顔を眺めて哄笑
 を發しました。又笑顔をして點頭いたり、親しい
 者が歌つて聞かせたりすると、非常によく笑ひ、
 之が六ヶ月位後になると大満足の表徴として、
 腕を急に上げたり下げたりする様になります、
 か様な子供らしい手の運動は約一年許り、喜悅の
 際の哄笑に伴つて起るのであります。新奇な愉快
 なものを見て聲高く笑ふことは、九ヶ月頃最も
 多いのですが、新らしい面白い音を聞いて哄笑を
 發するのは十五ヶ月頃が最多いのであります。
 一年許りたちますと笑の際の運動の性質がちがつ
 てきまして、子供は以前よりも一層多くの理解力
 を以て笑ふやうになります、十一ヶ月頃になると
 鏡に寫つて居る自分の姿を見て笑ひ、或は其が動
 いて居るのを見て喜びます。一年の終りになりま
 すと、自分から笑ふ計りでなく、他人が笑ふのを

見て、模倣的に笑ふ様になるのであります。二年の終り頃には詐りの笑を認め、四年の子供にては嘲けりの笑を示し、長く続く笑の際には涙が出るやうになります。

笑ふ時に齒が表はれたり、口角が引上りて口が横に廣がり、一種の音聲を出し、眼の輝き方がまじたり、涙が出たり、快感に伴ふ腕の運動が始まりたりするのは、どうして起るかといふ原因は、未だ知る事の出来ないであります。ダーウィン氏が笑は叫泣の起り程早くない、何となれば叫泣は乳兒に取りて笑よりも一層必要であつたからと申して居りますのは正當な説だと私は思ひます。しかしダーウィン氏が微笑は七週目に初まると言つて居るのは、初期の笑を看過したといふのではなくて、恐らく子供に於ける個人的相違によるのでありませう。殊に氏が哄笑は十七週目に表はると言つたのに徴しても個人的相違は明かで、其の他に四圍の境遇や、保護者の事情なども其副因とな

つて居るのであります。中にも出生當時は殆んど微笑を含まない快感の表情を表はすが、其表情からして四ヶ月位になると、漸次意識的の笑に移りて行くのは、是れ大脳の發達に伴つて明瞭なる表象が生ずるに至るからであります。擧げて笑ふのは二ヶ月位から表はれるもので（譯者曰、ダーウィン氏は身體を擧げて笑はすのと、精神を擧げて笑はすのと相似て居ると申して居ります。）三歳位になれば普通の笑ひ聲と、擧げて起る笑ひ聲とが隣室からでも明瞭に區別して聞き取れる様になります。子供の腋下を擧げると笑ひ出すが、猿も亦腋下を擧げられて大に笑ふものでありますから、此等は實に遺傳的の性質を帯びて居ると言はねばなりません。

匍へ笑へ二つになる今朝からは (一 笑)

みかんの話

保井この

私共の食用にする「みかん」(柑果)は「みかん」と言ふ植物の果實であつて、是には温州とか紀州とか八代とか中島とか色々變つた名があります。又其色、形、大さ、味、香等もいろいろ區別がありますけれども、植物學の上では、一つの名の下に呼ばれて居ますので「みかん」は「みかん」から變つて出来た、いはい、兄弟といふべきもの。「ゆす」「れもん」「文旦」「ぶしゅかん」等は同じ先祖から出た近い親類といつた關係のものであります。是より「みかん」を採つて其外觀から始めて、觀察して見ませう。

大體に云へば、形は扁圓形であつて、其の枝との續き目には、不正の星形に似た緑色の普通に「ヘタ」といふものが附いて居ます。是は柑花の萼が残つて居るのです。此萼と反對の例に一つの點が

ある、是は徳利形をした子房の頸即花柱といふ部分の落ちた跡であります。

「みかん」の果皮の色は、所謂橙黄色である。是は果皮の内部に「カロチン」といふ橙黄色のものを含んで居る爲に出るのです。序であるけれども、「かき」「トマト」の、果實「にんじん」の根、黄菊の花弁なども等しく「カロチン」を含むからあの様な色をするのです。

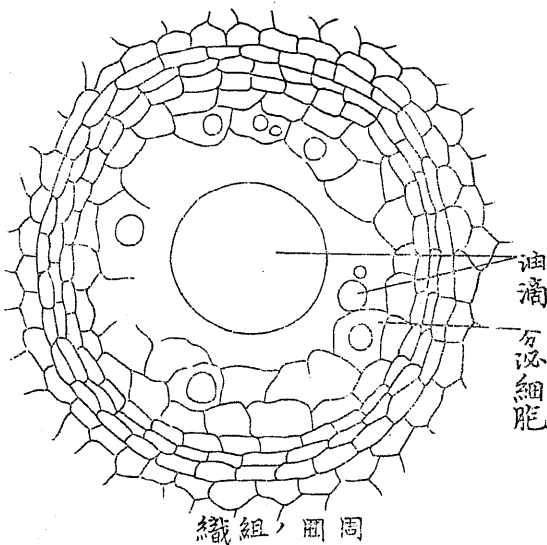
「みかん」の果皮には尙外から見ても注意すべきものがある。それは果皮全體に見る小點の事で、此點は、果皮の組織の中にある小さな半透明の囊即油腺といふものがある爲にかく見ゆるのです。今「みかん」の果實を剥いで、其一部をさき、其小口を見ると、小さな半透明の珠を見る事が出来ます。是が油腺であつて他の部分が不透明な所に此所のみが半透明である爲に表面から點々となつて見ゆるのであります。此油腺は果皮を作つて居る細胞の間に隙間が出来、後其周りの細胞が、

漸々（だんだん）に破れて一つの室（むろ）を作り其室の周りの細胞（さいぼう）が分泌細胞（ぶんぶんさいぼう）といつて、油（あぶら）を分泌（ぶんぶん）すると共に室（むろ）の壁（かべ）となつて、其内（そのうち）に油（あぶら）を貯（たくわ）へるのです。

油腺（ゆせん）は「みかん」類（るい）の有する一つの特兆（とくちょう）であつて柑類（かんるい）の芳香（かうかう）は、此（こ）の油腺（ゆせん）に生ずる揮發油（ひつぱうゆ）の爲（ため）であります「リモナード」に香氣（かうき）を與（あた）へる「レモン油（ゆ）」は、やはり「みかん」類（るい）の「れもん」の果皮（くわひ）から。又（また）藥用（やくよう）や香料（かうれう）に使（つか）ふ橙皮油（とうひゆう）は「みかん」の果皮（くわひ）或（ある）は「だいご」の果皮（くわひ）から。其油腺（そのゆうせん）内に貯（たくわ）へらるゝ揮發油（ひつぱうゆ）を集めたものであります。次の圖（ず）は油腺（ゆうせん）を薄（うす）くきつて顯微鏡（けんびきやう）で見て畫（え）いたものであります。

「みかん」は前に云つた如く「みかん」果實（くわじつ）即（すなは）ち柑（かん）花（は）子房（しほう）の成熟（せいじく）したものであります。そして凡（すべ）ての花（は）の子房（しほう）は葉（へん）の變形（へんけい）したもので、或（ある）花（は）では子房（しほう）は一枚（まい）の葉（は）から出來（でき）る、他（た）の花（は）では二枚（まい）以上の葉（は）の集（あつ）まりから出來（でき）るのですが、「みかん」は此（こ）の後者（こうしや）即（すなは）ち多數（たすう）の葉（は）から出來（でき）た子房（しほう）を持つ（も）つものゝ一つであります。そして其葉（そのは）の數（かず）は常（つね）に瓢囊（ふくろ）の數（かず）と一致（いちじ）する

のであります、即（すなは）ち十（じゅう）の瓢囊（ふくろ）を持つ（も）つものは十枚（まい）の葉（は）より、九（く）つの瓢囊（ふくろ）を持つ（も）つものは九枚（まい）の葉（は）から出來（でき）た事（こと）を現（あらわ）はすのですか、一つ色（いろ）の「みかん」では



此（こ）瓢囊（ふくろ）の數（かず）が略（およ）一致（いちじ）して居（み）ますけれども、常（つね）に一定（てい）して居（み）る事（こと）はないのであります。

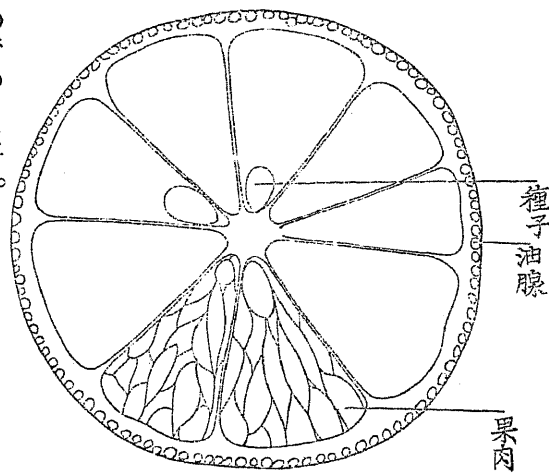
今（いま）一枚（まい）の葉（は）を持つ（も）つて、其表面（そのひやうめん）即（すなは）ち上面（うへめん）を内（うち）にして

縁邊をつなぎ合せたとすれば一個の室を想像する事が出来る。

圖は「みかん」の若い果實を輪切りにして、其切口を見た所です。即ち

集まつた八枚の葉は一個の果實をなして其内に八室を生じ葉と葉との間は皆密接して互に融合してしまつて居るのであります。

此の若き果實が漸々成長すると共に室の外周りの壁から室内に向つて突起が出て、段々延びるに随つて其基の所は縊れて緩急に或は漸々に太くなつ



て行き、果實の熟する頃には此突起で室内の空所が凡て充たさるゝに至ります。そして此突起は多數の細胞から出来て居て外壁は小形であるけれども、内部の細胞は大きくて、其内には多量の汁液を含んで居ます。此汁液は糖分に富み芳香と酸味とをも有し、時には稍苦味を帯ぶる事もありまうけれども、味がよくて吾等を喜ばせる食料となるのであります。

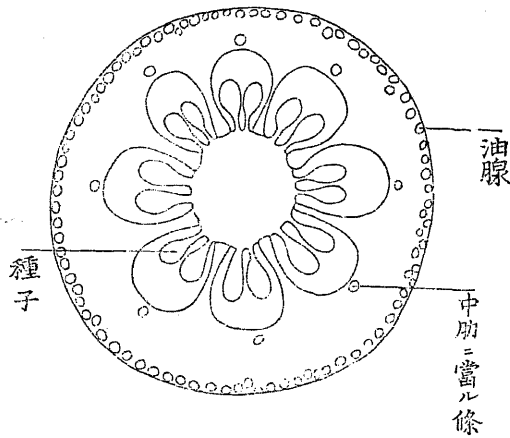
室内が多汁の突起即ち其果肉を以て充たさるゝ頃になると、室の周囲の部分の革質に變つて來て各室の間の「仕切り」は二枚の膜となり、外周縁部は外の粗い組織と容易に離れ得る様になりて、室は一つ一つの房として離す事が容易になるのである。

次の圖は完熟した「みかん」の横斷面を示してありけす。前の圖と比較せられたなれば此間の變化を容易に認るゝ事と思はれます。

「みかん」の各室の外側の略中央を通して、一本の

條があり、此條を下に附いて行きますと終りは「ヘタ」の部分を通じて枝から這入つて來て居る事を見ます。是は子房を作つた各の葉の中肋であります。そして普通の葉の中肋が葉の先端に近づくと共に細くなると同じに、此果實にても其頂きに行くと共に細くなつて居ます。

此所で私は「みかん」の食べ方を一寸申て見たいと思ひます。此様な事は釋迦に説法で或は徒爾かとも思ひますけれども、時々「みかん」の果實を手當り次第に剥ぐ方を見る事があります。是は體裁上を言つても餘り見善ない許りてなく、早く食べるといふ側から見ても損なむき方であります。私は慥か作法の先生から教へて頂いたと思ふのは、果實の頂即ち花柱の



落た跡のある邊りに一寸傷をつけて、是から果實を二つに縦に割き各を又一つに割いてから房を離しますのですが、

此離す時に何れから離すと云ふ事を教へて頂いたが如何かは忘れましたが、私は常に下から上に離します。是は前に申した通り中肋は下が太くて先端に至るに従つて細くなるのでありますから、上から離すと條がとれ難いからであります。此後は先生に教はつた通りかすを果皮に裏んで捨てる様に致して置きます。

此の果皮は藥用に致しますけれども、集めて置いて藥に賣ると致しても餘り金額にもなる程高價なものでも有りませぬが、蚊の多い所では是を乾かして置いて蚊遣火としますと至て調法と思はれます。蚊遣火に

は除蟲菊が上等でありますけれども「みかん」の皮の馬鹿には出来ませぬ。

却説、房の中には果肉の外に何も無い「みかん」が澤山に有りますし、又上等のものの紀州、八代の如きは種子を有つて居ます。此種子の數は普通二個ですけれども、一個、又二個以上の事もあります。此種子について面白い事は、通常一個の種子の中には一個の胚と云ひまして、小さな植物を藏するのであります。此類には一個に限らぬ事があるので、或學者は「みかん」ではありませんが「くねんば」について、七個の胚を含んで居たのを見た報告せられてありますし、又或人は此類の種子を播いて一種子から二本の植物を得たと云ふ事を記されてあります。

種子の無い「みかん」が食用には結構である事は申す迄も無い事ですが、播かぬ種は生へぬと事ふ事は解らなくとも、何故に種子無しで樹木が殖へるかの疑問は小児の方々の必ず起さるゝ事

で有りませうし、又何故に種子が無いかの問題をも起すであらうと思ひますから、一寸序に書いて置かうと思ひます。

第一「みかん」の種子の無いものは皆良種であります。然るに他の不良種は皆種子を生じて是にて殖やす事が出来ます。且若紀州、八代等の如き良種で種子を生ずる種類にても、種子から生じた苗に出来る果實は、會には非常の良きものが有りますけれども、大體に申さば常に親の果實よりも數等下つたものとなるのが普通であります。そこで良種を殖し生存せしむる爲には常に砧接をせねばなりません。そして其砧木には下等の苗又は「からたち」を用ひて是に良種の枝を砧接するのでありますから、従つて良種には種子の必要はないのであります。

第二の問題は人爲的の撰擇の結果であります。誰にしても「みかん」を食べる時に種子のあるのを厄介に考へるのは同じで、味は良くとも面倒だと

云ふ感を起すでありませう。是が所謂種子無し」を生じた一方の原因であります。茲に一人の「みかん」栽培者があるとして、其人が他の栽培者のよりも種子の少いのを市場に出したとすれば、此人は買人から賞讃せられ、同時に利益も多く得る事でせう。そこでだん／＼種子の数の少いのを心がけた結果は、遂に種子なしを得るに至るでありませう。但し何故に普通より少い種子のものを生ずるか等の問題になりますと少し難かしい理論に涉りますから夫は止して置きませう。併し今日は色々の撰擇法によつて果實の良種は年々に増加しつつあるのであります。

此の記事を草しやうと思ひまして私は若干の「みかん」と文旦とを調べました、所が私の見た「みかん」は温州で相應に上等のものであつたに拘らず、果皮の表面には、何れも圓形で乳頭狀をして居る小點を多少見ない事はなく、甚だしいのは半面悉く此點で覆はれて居ました。文旦には淡緑

色の果皮の上に美しい模様の様に鰐茶色の圓形或は細長き小點の散在するのを見ました。是等は恐らく皆様の「みかん」を召上る時に何時も見出さるものと存じます。或人は「みかん」の果皮が瘤の如くなるのは其果實の性質であるとかへ思ふ様であります。併し是非常の間違ひで、是等の小點を仔細に見れば、皆貝殻を蒙る昆蟲なる事を知られませう。是等は皆貝殻を以て其身を覆ふ處から貝殻蟲の總稱がありまして、其内には「まるかひがらむし」、「ながかひがらむし」とびいろかひがらむし」等色々あります。是等は皆其幼蟲期には細長き嘴を有して、それを樹木の莖、葉、果實等の中に突き入れて汁液を吸ひ取るのでありますから、多少に拘らず害をするので、甚だしい時は樹木を斃すに至ります。でありますから果樹栽培の盛んな亞米利加や、獨逸の如きでは、其警戒が非常に嚴重でありまして、果物店の店頭に此様な貝殻の附着したのを飾る事は店の恥とし、或地方

では警察官の干渉さへある程であります。其の爲に我國から輸出する苗木等の全部送還或は一火の下に焼却せらるゝ如き災厄に遭ひし事さへあるのでありますから、是等は國民一般に其知識を行き渉らせて將來我等の好む果樹の栽培上に好結果を來させたいと存じます。

松の話

礫川生

松は目出度いものである。也有の十七字詩に「松風の里どこ迄ぞ門飾」。また去來に「月雪の爲めにもしたし門の松」。幸田草臣の和歌に「宿毎に立て渡したる今朝見れば都も松の木の間なりけり」とある。又松は獨り新年のつきものであるのみでなく、松と月とは實に配合の極致と云つてもよい。此の二つのものを巧にとら

へ來つたのは其角で「名月やたゝみの上に松の影」と云ふ句は三尺の童子でも知らない者はない。蓼太の「名月や生れかはらば峯の松」と云ふのもその類である。

抑も松は何故に芽出度いか、古來松に對し悲觀的な歌や俳句がないでもないが、十中九分通り迄は皆芽出度きしるしとなしてゐる。朝早く海岸の松原を散歩した人は、一種云ふ可らざる愉快を感じるのであらう、松はたゞに常緑樹たるから芽出度いのみでなく、松より出づるものに人間に有功なる物質があつて人の齡を伸ぶるから芽出度いのであらうと思ふ。古來公孫樹の下にては子は育たず。高砂のおぢいさんおばあさんが、松の傍に立つてゐるのも大に意味のあることだと思ふ。諸前提が甚だ長くなつたが、新年に因みのある松につき少し述べて見度いが松は *Gymnos zemaee* の *Coniferales* の *Pinales* に屬するといふ類のことは暫くぬきとして愛玩用としての松に就て少しの

べて見やう。

近來は園藝と云ふ事は非常に流行して來た。殊に盆栽は津々浦々に到るまで、文人墨客ならずとも愛玩する人のふへたのは甚だ喜しい事である。盆栽には種々なる樹を用ふる事が出来る。然し其の中尤なるものは松と柏に及ぶものはない。柏は殆ど近來の流行であるが、松は天保時代頃から各地方に於て採掘され愛玩せられたものである。一體盆栽なるものは日本固有の術とも云ふべく、亭々として雲表を摩する老松の姿を、僅か尺にたざる盆裏にあらはすのであるから其の妙味は又格別である。従つて盆栽に用ふる植木鉢の如きも、方圓種々あり、模様色彩その妙を盡し、特に支那製を愛玩するが、西洋では植木鉢の如きは到つて粗末なものである。彩色の代りに色紙で覆ふ位のもので、樹木にあれ花奔にあれ、生長をたすけて花は主として剪花として賣るのである。その代り花壇の發達は著しきもので、美くしい瀬戸物で

その縁をとる事などもある。偕て又話が他岐に入つたが、盆栽としての松はいかなるものであるかと云ふに、普通赤松、黒松、五葉松、錦松、枝垂松等である。總じて雄松と稱するのは、樹幹粗にして葉は太く硬い。之に反して雌松と唱へるものは、樹幹滑かにして葉は細くこまかい。枝垂松は誰も知つてゐる通り枝が垂下する性のあるもので五葉松は五葉簇生するものである。錦松と云ふのは、樹幹の外皮が大に發達して、殆ど内部の肉が無いやうなものである。之れは枝振りの面白いのよりも外皮の奇なるを賞玩するので、培養には困難であるから素人向きのものではない。松の產地は日本國中には甚だその數が多くあるが、茨城縣下及關西では姫路の紅肌の雌松及淡路島の淡路松は雄松で賞賛される。一寸斷つて置きたいのは、盆栽などと云ふ事は決して一朝一夕の仕事ではない、數年否十數年を苦心に苦心を重ねなければならぬ。従つて茲に容易にその充分なる事を説

明する事は出来ないが、もし庭の片隅なりにともし松を栽培して見やうとの御考へのある方の御参考にもなれば非常なる幸である。

松の栽培

先づ山又は海濱いづ方よりなりとも松の新木を探り來つて假畑又は假鉢に植へ込むのである。成可くは直ちに、假鉢に植へる方がよろしい。其の時は、陰曆の二月より三月であつて松の緑が漸く二分か三分に伸びた時である。古來此の時季をば「松の投植」と云ふ位であるから百發百中めつたに枯れるやうな事はない。そして植ゆる時は、豫め天候を見て降雨のありそふな前日に植へるのがよい。成可くは前年に根の周圍に鍬を入れ、牛蒡根とて垂直に下つてゐる太い根を多少切りをき、翌年春中旬とるのがよい之れを根廻しと云ふのである。

植土

松は一體あまり肥沃なる土地でなくとも、充分に

發育するものであるから従つて植土の如きも、大して撰ばない。赤松亡國と云ふやうな説も聞いたが、議論は抜きとしても兎に角不毛の地にても松は成長する。先づ赤松なれば山の土に砂三分の一黒松なれば山の土に眞土半々に砂を三分の一加へる。一體植物はそのものの生育して居た場所の土壤をとり來り植ゆるのがよい。之れは獨り松に限らず、凡ての植物がそうである。

肥料

いかに松は瘠地を好むとは云へ、方尺にも足らざる鉢の中に培養するのであるから時折りは肥料を與へるがよい。肥料は一般の盆栽肥料で充分である。又は油滓を水に混じその腐敗せるを用ゆるもよい。あまり松の葉が長く伸び過ぎ軟かになつたらば、砂を多量に加へた鉢に移植するがよろしい。砂の多い盆栽には灌水を怠らぬようにしなければならぬ。肥料は春秋彼岸前後に施すがよい。

灌水

松は一凡に乾燥した方を好むものである。灌水の場合注意すべきは上より水をかけてはいけない。如露の口の小さなものを以つて根の周圍にそゝぎかける、もし葉や枝を水で洗つた場合には、日あたりよき風とうしよき所で乾かなければならぬ雨水にあてゝも半日以上雨水に晒すのはよくない

移植

松は新根の發生や、少なきものなる故、三年目もしくは四年目に一回移植すれば充分である。その場合には網の如く生じたる小根を半分以上缺でとりさり、よく掃除してもし腐敗したる部あらば、丁寧にとりさり植ゑる、季節は前にも述べた如く新暦の三四月及び九月下旬より十月末までいゝ、あまり寒暑の烈しい時は手をつけてはならぬ。松を盆栽に仕立てる場合に、始めから牛蒡根を切りする時は枯死するから移植する度毎に牛蒡根を切りちいめてゆかねばならぬ。

松の手入

松は總じて強健なものである。寒風凜烈なる時にもいつも緑の色さい々としてゐる。所謂雪にも霜にも恐れざるものであるから一月頃と雖も温暖なる室内に置く必要はない。と云つて盆栽のものは特別に寒氣にあてなくてもよい南向の椽などに置くのが一番である多く水をやるのは根を腐敗せしむる原因である。四月春暖になれば芽をふき風致を害する。あらかじめ灌水を節し又は移植するとよろしい、若松にあつては生長も盛なものであるから四月より七八月にかけて、松の枝振りを損じないやうに心掛けなければならぬ。即稍頭より緑を抜いた時は、緑の僅か伸長した時に、指頭で半分位つまとり置く時は葉が生じても長くない然らざれば葉が大に生長し六七月頃には見苦しきものとなる。老松はさまで發育するものでないが日光の直射する所に置き灌水を減じ日中緑の垂るゝ位にしてをく。芽を摘むのは八十八夜頃よりな

すが適當である。九月頃よりは松の古葉を取り去る、指頭を以て葉を逆に引くと容易にとれる。

十一月頃もやはり古葉の掃除を怠らず。汲み置きの水を與へる、十二月頃になつたらばはや南向きの椽先などに置くのがよい。

松の病

松はやゝもすれば枝葉の枯死せんとするものである、斯る場合には貝殻の粉末を一に水五の割合にて養つめ用ゆる。葉に斑點生じ又は柔軟となり又は黒き煤の如きもの附著する時、又は葉根に水泡の如きもの生ずる時には、川灸をよく煎じて洗ふ又木虱が発生した場合には、テレピン油を塗るか烟草の煎汁をそゝぐとよい。

盆栽の種類

直幹 樹身が眞直に立つもので幹の太き拇指位高さ數寸位のものはよい調和である。

双樹 俗に相生と稱するもので、一つの根より二本の幹が生じたるものである、普通は二本

寄植

の木を寄せて植へ數年の後恰かも双樹の如く見するのが多い。

一盆の中に種々なる數株を植ふる森林の趣きをあらはすもので素人向きでない至難のものであるが要するに幹と幹とが互に正面から見て重ならぬやうに注意し、葉間より樹幹が隠見するのがよい、一體寄植るは必ず奇數と限る人もあるが必ずしも偶數では惡いと云ふ事はなからうと思ふ。

千本松と云ふのは實生林とも云ふ位いで、松の實からまいて松の小さい林を模するものである。その方法は秋松の實の充分熟したるを採り來り、直ちに地下に埋め、翌春の彼岸頃鉢に肥土をもちて之に蒔きつけ、たへず灌水に注意すれば、入梅頃芽を生ず但し實の熟不熟により芽の出方に大に遅速がある、偕てかく芽が生じたら二年目位までは充分に肥料を與へ、三年目位より大に加

懸崖

松は直幹を賞すれども、中々直幹の優等なるは得難く、近來は懸崖を愛玩する、即その名の表す如く、斷崖絶壁より舞ひ下る姿である。半懸崖とて横に出でたるもある。

石附

岩石の上に樹の生じたる所を模すので水盤などにに入れて妙である、石附根洗とて根が固く石を抱くのに妙味がある、根洗に仕立てる方法などあれど省略する。

植木鉢

植木鉢は素焼のものが第一である、下の孔塞げには瀬戸物の破片を用ゆるがよい、地上に一つ所に長く置く時は、下より蚓蚯など這上るから成可くは棚をつくり列べて置くのがよい。然し素焼のは御座敷用とならぬので種々な贅澤な品があるが品質はをきてたいその色と形につき二三述べて見やう、盆の色は普通赤、白、黒、青、黄、である。青い鉢には松、柏、白梅等、赤い鉢も同様

である。白い鉢には、松、紅梅、樅の如きものが配合がよい。形は第一に碗形又は方形の少し深きもの、之れはやゝ小高き丘とも見るべく、直幹懸崖、半懸崖、等に用ゆ、第二は長方形で上方の開きしもの又は筒形のもの、之れは懸崖に用ゆ、第三は、薄い圓形、橢圓形又は長方形の平盆である、之れは直幹、双樹、寄せ植等に用ゆる、盆中の位置は一概にはゆかぬが、大凡鉢の中央より稍後方の左か右に寄つた方に定める、之は自然の數でかくするのが一番收りがよいのである。

▲冬の用心▼

ストープから瓦斯が漏れては居ぬか。子どもが臭いといふ様になつてから、やつと氣がつく様のことでは遅い。かつかと火鉢の炭火をおこして、室内がもつとして居ぬか。換氣の設備を伴はぬ暖室の設備は、差引勘定零る悪い。室内が寒すぎはせぬか。又その反對に熱すぎはせぬか。空氣が餘り乾燥し過ぎては居ぬか。此三すきは皆感冒のもとになる。保育室には必ず正確な寒暖計を備へよ。但し保育室の寒暖計は裝飾ではない。絶えず注意して溫度を檢べよ。

保育叢話

光藤 フデ

○子供(兄弟姉妹)の喧嘩について

子供の喧嘩を見て居りますと、實に野蠻時代の住民の有様を目撃する様な感じが常に起ります、天真爛漫少しも飾氣のない子供は只自己の欲するものに振舞ひます、強いもの勝ちで、どうしても弱い方が負けて泣くので御座います、しかし野蠻時代と違ふて、立派な政府があるからよろしいのです、即ち泣いて訴訟を起すのであります、裁判所に訴へるので御座います、母たる檢事はすぐ様、事實調査に移ります、喧嘩した二人の者を呼び出します、時に或は出張します、出張する方が多いのであります、被告と原告とは互に自己の利益になる様に言ひ張ります、しかし之は少し辯の出来たる子で御座います、辯の出来ないものは、ありのまゝを陳述します、其處に證人があります

三〇

其の證人がすぐ土瓶口を出します、種々聞き取つた上で判決を下します、其の判決は一寸六ケしいので御座います、時に或は子供の心狀に注意して斟酌してやらないと子供はどうしても官の判決に服しません、控訴します、恐ろしく控訴します、以前より大聲を上げて控訴します、其の控訴になりましては、モ一前の善を善とし惡を惡とするの判決は功を奏しません、只理非を論せず、控訴するのであります、皆様は此の場合如何なる手段をお取りになりますか知りませんが私は只モ一子供を氣を換へさせる様つとめて、裁判を中止するのであります、しかしかゝる事は餘り見受ける事では御座いません、大抵は控訴せずすぐ判決に服します。

その判決は餘程公明でない子供に種々の惡影響を及すので御座いますとすれば母親などは偏頗な判決を下し易いのであります、殊に數多ある子の中では或る事情の爲めに可愛い憎いの別が出來

る事さへあります、我が愛の度の強い子程、都合のよい判決を下し易いが女子の常であります、其の平素の憎愛によりて偏頗な判決を下しますと如何なる弊害が起るかも分りません。

例令ばこゝに二人の喧嘩があるとしてまして、訴訟を起したと假定します、一人は常日頃我が愛情の濃かな子、一人は左程に思はぬ時に、愛の度の強い方が無理をいふて喧嘩をしたとしますと、十人が十人苟も身に教育ある母親でありますれば、理を理とし、非を非とするに、ためらふ人はありますまいが、其處が女の弱點情にもろき女心の、我が愛子の愛にひかされて、誤つた判決をします、其の時はどんな結果になるでしょううか。

一、無理を以て勝利を得た子供は、一寸外見が宜しい様でありますが決してよろしくないのです、ります、この兒の心に如何なる印象を留めますか、自分は悪い事をして、叱らないで通してくる、悪い事をせんが損だ、仕度放題仕た方

が得たと口には申しませんがたしかに其の心に我儘の種子を植付るので御座います。

二、又理があつても母の偏愛、愛の爲めに敗訴となりし子供は何と感ずるで御座いませう、意志の強い子ならばあくまで其の冤を訴へて泣き叫ぶで御座いませう、母親の威光詮方なく服すといたしましても其の心中己に母親を信頼するの念が薄らぐと同時に、其の子の性質がねぢくれます、常にねぢけた目を以て母親を見る様になります、又他の人に對する様になります、他人に嫌はれる様になります、尙更ひねくける様になります、將來の惡徳はこゝに其根が出来て仕舞ひます。

三、證人として側にある子供は如何で御座いませうよし、口に出さずとも、心竊かに、この母の判決を不服に思ひ、母さんは、あの子が可愛いから、悪いのに叱らないで、善い方を叱つて可愛相だは、我々もよい事をして叱られるかも

知れない、一層仕度放題にしてやれなど、少し性のわるい子は自暴自棄に陥りて、其の將來の品性を傷けるで御座いませう、又一方には母の威信地に墜ち、子供は母親の裁判を喜ばなくなり、事ある毎に他の人に依頼する様になり易いので御座います、そこで母親の教育の功果が擧らなくなり、

右の様な譯で母の偏頗な判決は、我が愛子を誤り他の兒を誤りて將來の害を醸すことが多大で御座いますから、そんな事があつてはなりません、不幸にして實際種々の事情の爲め抜く事の出来ない憎愛の念が根を固めて居りますなれば、母親は一層の注意を拂つて、決して其の愛に溺れず常に限りなき慈愛の中に、理性に訴へて事を裁斷し苟も愛兒といへども、非なるときには充分之を詰責して其の不都合を詫びさせなければなりません。餘計に可愛い子ならば少し位餘計に叱つても宜しいと存じます、兎も角此の喧嘩は餘り宜しくあり

三二
ませんから、平素から成丈喧嘩をさせぬ様に氣をつけて訓練する事は怠つてはなりません、しかしどうしても、一日同じ室に、同じ庭に、袖を連ねて數人の子供が遊びますと一度も喧嘩しないでいふ事は六ヶしい様で御座いますから、若し喧嘩が御座いましたならば母親は須らく檢事が法庭に於て判決を下すと同じく公明正大な心を以て伏仰天地に耻ぢない裁斷を下すべきであります。

冬 の 用心

保育室の戸障子に破損はないか。隙もる風は感冒を持つて來る咳の出る子どもはないか。少しでも發熱の氣味のある子どもはないか。感冒は初めを大事にせよ。

ひ。あかぎれの切れて居る子どもはないか。少しでもあつたら直ぐ手あてせよ。併し、手あてよりも豫防を心がけよ。水を使つた手のぬれて居る子どもはないか。泣いた顔のよく、ふひてない子どもはないか。ぬれた手を直ぐ火鉢やストーブで燥かして居る子どもはないか。

保育の實際

△種子の採集

學習院女學部
幼稚園

野 口 幽 香

私どもの幼稚園では、秋になりますと、一番上の組の子どもに植物の種子の採集をさせます。申すまでもなく天然界觀察の爲なので、家庭で、も、途中で、も、幼稚園で、も、見當り次第拾つて持つて來させますが毎年随分澤山に集ります。今年も十月の末からそろ／＼始めまして、十二月中旬集めて居ります。けふまだ十二月の十日ですが、一方の組では百三十餘、一方の組では百五十餘集めて居ります。勿論朝顔の種子などは大勢が持つて居りますが、子どもから申せば別々に眼についたのですから、一口數の中に入れるのです。そこで、採集した種子は仕切りのある箱へ入れて保存いたしまして、來年の春、畑へ蒔きます。即ち其の時は

實際拾つた子どもの次の組のこともがする譯で、此の點が稍面白くないのですが、仕方があります。そこで、今私の申度い要點は是れからなのでして、其の子ども達が種子を採集します間に、其の種子の各の性質と申しませうか、即ち植物の種子が如何に其の繁殖を遠方までさせる様に出來て居るかといふ、自然の妙技を幾分なりと觀察させ、興味を起させ度ひと思ひましたのです。しかし勿論六かしい植物學の方のお話は子どもに分りませぬから、次の様にして種子の種類のいろ／＼あることを話して見ましたのです。

一、飛車の様に、風が吹くとくる／＼とまはる種子。

例へば、紅葉の種子、
二、飛行器の様に、風が吹くと飛んである種子、

例へば、タンポ、野菊、藤袴の種子、
三、お菓子の様に奇麗でおいしさうで鳥の大す

きな種子、

例へば、南天、

四、お巾著の様に子供の腰のまはりにくつつく

種子、

例へば、藪シラミ、

五、地雷火の様にバチバチと飛んではねる種子

例へば、ホーセン花、カタバミ、

まだありますが、手近なこんな類を話しましたら、子どもはサア大喜び、ニコ／＼と聞いて居ました。が、それから後、風の吹く日は、「先生飛行器の種子が」と、太郎も採れば次郎も採つて風に吹かせて大騒ぎ。そこで、うまくいつたなと先生自身もニコ／＼。

△毎朝のお話

麹町區富士見小學校
附屬幼稚園

山下つや

毎朝全園児を一室に集めて、五分から十分位まで

のお話を、主任保母が致します。其の仕方は保母が、「みなさんはどの子どもになつたのでせうか」と問へば、大きい子どもは、富士見幼稚園の子ども」と答へる。それで、自分は富士見幼稚園の子どもだといふことを、幼児の頭へ入れておき度いと考へて居りますのですが、子どもは能くうけとつて呉れる様に思はれます。それから「富士見幼稚園の子どもは、どういふ子どもになるのでせう」と聞くと、「立派な良い子どもになる」と答へます。そこで、立派な良い子どもといふことは如何なることを云ひ聞かせます。立派な良い子どもといふのは、すなはな子、泣かない子、お顔や手をきれいに洗つておく子、お友だちと仲よく遊ぶ子、自分より小さいものを可愛がる子、まぢがつたことはしない子、なんでもほんとうのことを言ふ子、お行儀のいい子、なんでも本氣になつて精出してする子、此等のことを毎日繰りかへして話して聞かせ、實行の出来るように誘つて居

ります。それで、いゝことをした時には「それでこそ富士見幼稚園の子どもである。いつでも、どこでも、其の通り出来る」と立派な良い子どもになれる」と言つて勵みます。若し又少しでも悪いことをした時には「そんな事をすると、富士見幼稚園の子どもになれませぬ」と言つて戒めます。斯ういふ様にして居ますと、一年二年と保育して居る間に、大に効果があらはれる様であります。但し、此の朝のお話とても、そう固くるしいのでは勿論なく、富士見幼稚園といふ處から富士山の話も出ますし、立派な子どもといふ處から桃太郎さんや金太郎さんのお話も出ます。誰れでも自分のお仕事に精出してする人が一番立派な人といふ話から、お百姓さん、機を織る人、大工さん、屋根やさん、左官やさん、畳やさん、鍛冶やさん、漁師、船頭さん、兵隊さん、色々子どもの知つてゐるに任せて話をしてやります。

又「皆さんや先生は何といふ國の人でせうか」と

聞くと「日本の國の人と答へる。それで、日本國といふことを知らせ、又「日本のお國で一ばん大せつな方はどなたでせう」と問ひかけて「天子さま」「皇后さま」と答へます處から、兩陛下のお話を致します。殊に三大節式日の前後に此のお話を致しますと、御眞影を拜する時にも、幼心にも氣をつけて居るやうに見うけられます。又式後にも、しばらくは覺えて居ります。

△體育と衛生

麹町區精華學校 幼稚園部 鈴木 まさ

當幼稚園では體育を重ずる手段として、第一、つとめて日あたりのよい外の運動場で幼兒を遊ばせます。もし日蔭で遊んで居るのを見ました時は、すぐ日なたへ連れて参ります。「保育の場所は屋根の下のみではない」と申すのが校長(寺田勇吉氏)の意見で御座います、手技をいたさせますにも、

風の餘り吹きませぬ良いお天氣には、多くは外で致させます。書き方などは最もよろこびまして、室内でするよりも長時間倦かずに隨意に書いて居ります。それで室内よりも却つて面白いものを書くやうに思はれます。管理の上にも大層便利が宜しう御座います。それからまた、毎日必ず遊園か室内かで駄足を致させます。深呼吸も外と室内とで二度致させます。室の内でするときは腰をかけたまゝ膝に手を置き、姿勢を正しく口をむすばせ、三四分間無言で居らせた後、腹部に力を入れさせて、十回以上深呼吸を致させるので御座います。それからお辨當のことで御座いますが、だんくお寒くなるに従つて、冷い御飯を子どもに頂かせますのは衛生上よくないと思ひまして、いろいろ工風致しました結果、昨年の冬から、少々不體裁では御座いますが、ストーブのかこひの周圍に一つ／＼さげて置くことに致しました。そういたしますと丁度食事の頃までには充分暖まりまして、

お辨當の蓋をあけますと、湯気がぼつぽと出る程で、みんな喜んで頂きます。食後には必ず嗽をいたさせます。

又、冬になりますと、寒い爲に子どもが自分で顔を拭ふことを致しませんのか、どうも顔が汚れてゐるやうで御座います。之れも衛生のため宜しくないと考へまして、毎日終りの會集の時に、汚れて居る子供だけ拭いてやることにして居ります。其の仕方は、ガーゼを五六寸位に切りまして、湯にひたし、一枚で一人を拭ふことにして、其の使つた後のガーゼは、曹達を入れて煮沸してよく消毒して置きます。又翌日よく洗つて用ゐるの御座います。

▽「保育の實際」の寄稿を乞ふ△

皆さんが毎日實地保育をなされて居る間に、お感じになつたこと、御實驗なさつたこと、御工夫なさつたこと、乃至は御疑問のこと、なんでも其度毎に御送りを願ひます。

机邊だより

倉橋惣三

○クラーク大學の兒童

研究事業

今世界で最も盛に兒童研究をなして居る大學が何處かといへば、米國のクラーク大學でありませう。總長のスタンレー、ホール博士自らが最も熱心なる兒童學者でして、博士及門下諸氏によつて今日まで此の學問の爲に貢獻されたことは、非常に大なるものであります。然るに一昨年から一層その盛大を加へて、兒童に關する學問的智識の蒐集、播布、増加を計るのを目的とせる新組織が出来ました。今、博士自身の書いて居られる處によつて大體その状況を御紹介しませう。

第一部兒童に關する圖書の蒐集　世界中で出版發行された、兒童に關係のある一切の書籍、雜誌類は勿論、如何なる報告でも「トラクト」でも、兒

童に關係の少しでもあるものは悉く茲に蒐めらるゝのです。此部の主任のウキルソン氏が別に詳しく報告して居る處を見るに、其の蒐集の範圍の廣く規模の大なること、又特に其の仕事の活潑なること驚嘆の外ありません。

第二部兒童の出産に關する問題の調査　兒童に關する總ての養護問題の根底が、此の出産問題であることは言ふまでもない。然るに、近時文明國に於ける出生率減少の傾向、晩婚の増加、育兒の慣習の衰頹等は如何の現象でせうか。又性慾に關する衛生及び遺傳に關する研究等は、此の問題と直接の關係を有して近來特に盛に注意されて來出ししました。即ち兒童研究事業の中に、是非此問題を加へる必要があります。此の部門に關する報告は追つて主任ブスク氏によつて發表さるゝ筈です。其の折再び御紹介することにしませう。

第三部兒童の健康及び疾病に關する問題の調査

此の部門に於て、家庭、幼稚園、小學校の諸衛生問題、兒童期に於ける傳染性疾患の問題、一般婦人科及び兒科醫學、一歳以下の幼兒死亡率の増加に對する研究、都市生活の兒童に及ぼす衛生上の諸問題、其他のことが研究されます。又同時に、乳母、産婆、或は育兒用牛乳の問題等も研究されます。此の部の主任は、兒童衛生に關して有名なバルンハム氏であります。

第四部異常兒童に關する問題の調査 普通小學校に於ける所謂劣等生及低能兒問題、白痴教育、盲生教育、聾啞教育等のことが研究されます。

第五部兒童の犯罪に關する問題の調査 近來我國でも稍注意されて來た不良兒問題、殊に少年犯罪に對する原因及取締法の研究などが此部でせられます。

第六部性的惡習俗に關する問題の調査 成人の不道德の中、性慾的惡習俗は最も直接に兒童問題と關係あることであります。此問題は第二部と關

聯せる性質のものですが、殊に全世界に涉つて最も研究を要すべき廣い範圍を有する處から、特に此部門が設けられてあります。

第七部兒童の言語に關する問題の調査 兒童の心理的研究の上に於て、其の言語の發達が最も重要な研究であると共に、教育の上に於て語學教授法の研究は最も緊要の問題であります。即ち特に此の部門がある譯であります。

第八部兒童の體格及社會的關係問題の調査 兒童の身長、體重其他體格の發達に關する調査、氣候、季節の影響、都市生活及田園生活の影響、兒童保險の問題、法律上に於ける兒童證人問題、其他兒童に關する社會的慣習の諸調査が茲でせられます。

第九部實驗教授法に關する研究 即ち實驗教育學として我國にも唱導された、諸學科の教授法の實驗的研究をします。

第十部兒童勞動問題及職業教育に關する調査

兒童労働の問題は近世の社會問題の中、最も攻究改良を要することの一つである。我國に於ても近頃工場法の草案が出まして漸次此の問題の改良が與へられようとして居る。併し、教育との關係及び其工場の衛生問題等、速に解決を要する問題は尙ほ他に多くあります。又それと關聯して、職業的技術教育の問題も亦大に研究を必要とします。

第十一部道德及宗教教育に關する問題の調査兒童の道德性及宗教性の研究と共に、之れに對する實際上の諸問題、また道德教育と宗教教育との關係、また新らしき問題としては性慾教育に關する攻究等、此の部の司る處です。

第十二部教育博物館 完全なる教育博物館が伴はざれば、學校も實驗室も魂のぬけ殻の如きものだと言はれて居ます。殊に茲に於て土曜講演の如きものが屢々開かれて、實物供覧により教師の教育が行はれるのです。

以上、十二部門は未だ委く完備した譯ではないや

うですが、兒童を中心とせる問題の、斯くも多方面に涉つて盡されんとしつゝあることは海のこなたからも大に賀さねばならぬことであります。

○タンネル氏の「保育上の

三注意」

タンネル氏が去年十月の「幼稚園評論」誌上で、保育に關する三つの問題に注意をひいて居ます。其の第一は幼稚園に於ける衛生の注意である。氏の言ふ處を項を分けて見れば

(一) 幼兒の體質は成人と違ふて、有害なる微菌を殺すべき殺菌力に大に缺けて居る。即ち各種の小兒傳染病が多く且つ最危險な譯である。併し、左様の諸傳染病が、小兒には一度は必ず免れ難いものであると、信じあきらめて誰れも疑はぬといふのは、昔からの迷信である。醫學の進歩と衛生の發達は、かゝる誤れる考へを全然破棄し去るべきものである。

(二)第一には保育室の衛生設備を完くすること
各幼児銘々に茶碗手拭等の所用品を區別すべきこと、一體に小學校以上の學校に行はるゝ學校衛生的の注意が特に幼稚園に必要である。

(三)保姆は幼児のかゝり易き普通の病氣に就て一通りの醫學的智識が必要である。殊に傳染性の病氣の症候を心得て居なければならぬ。其の爲には此種の講演を聴くことゝ、若し出來るならば實際小兒病院を訪ふて臨床的知識を得ることが最も有益である。

(四)かゝる衛生上の注意と密接に聯關して離れざることは、幼兒に對する戸外の價值である。幼兒は前述の如く、最も傳染病に感染し易いものであるから、成人よりも殊に新鮮な空氣の必要がある。近頃流行の戸外學校の如く、寧ろそれ以上に戸外幼稚園を認めなければならぬ。

次にタンネル氏は第二の問題として、幼兒の性慾教育に關する注意を述べて居ます。即ち幼兒から

「自分は何處から生れたか」といふ類の質問が、出た時、保姆は如何に答ふべきかといふ研究です。勿論すべて子どもの質問に對しては、眞なるが故に適當の答へだといふことは出來ませんが、又その反對の、まるで出たらめの一時ごまかしは最もよろしくない。此種の問ひに對しては殊にそうです。で、果して如何なる答へをすべきか、といふことは、一定する譯にもゆくまいし、タンネル氏もよき解決は與へて居ません。成るべくは母親をして其の答を與へしめるがよいといふのですが、總ての母親が其の解答者に適當とはいへない。此の問題に就ては充分行き届いた研究が要ると思ひますが、兎に角、吾々は、最も嚴肅なる態度を以て、かゝる質問にあわてない丈けの用意は常に必要であります。

第三にタンネル氏の説いて居ることは、幼稚園に於ける玩具のことであります。即ち普通行はれて居る幼兒の想像に關する説、即ち幼兒は非常に想

像性に富んだものであるから、玩具はなるべく不完全な玩具程がいい。兒童の想像力で補はすべき餘地の澤山あるだけがいい、といふ説に對して、同意し難いと言ふのです。タンネル氏の考へでは幼兒期は想像の最も盛の時といふが、活潑なる想像といふものは豊富なる記憶を要することである。即ち先づ充分認識させる必要がある。殊に幼兒期は最認識力の強い時期であるから。此時に於て成るべく色々の實物を認識させる必要がある。そして、その認識したる實物になるべく類似した、形の完全した玩具（子ども用として形は勿論小さくとも）を與へて其の認識を助ける必要がある。假令ば農業や鍛冶工場の實際を見せて、鋤や鋏、鍛冶屋道具の類の小さい玩具を與へて、それを遊びに取扱はせて、實際の認識を明かにさせるがよいと言ふて居ます。鋤も鋏も皆棒切れで、鍛冶屋道具は皆瓦や石ころといふ遊び方は、折角子どもが、かゝる實物に就てよく知り得る機會を徒費す

るものだと言ふ意なのです。

扱て、此のタンネル氏の考へに關しては、學問上にも、又殊に保育の實際上に、色々と議論のあることと思ふ。大に皆さんの御意見を伺ひ度ひと思ふのですが、併し、タンネル氏は、一つには幼稚園の保育用玩具が、餘りに單調過ぎるといふ様な處を見ての、反動的提言ではないかとも察せられます。若しそうであるとすれば、幼稚園の玩具殊に遊園に於て幼兒の使用して遊ぶ玩具が、餘りに棒切れ石ころ主義になり過ぎた場合の弊は、吾々も認めなければなりません。又一つには、タンネル氏の此の提言の本旨は、幼兒をして世上の種々の實物を直觀せしめるの必要を唱導せんとするにあるものとも解せられぬことはない。若しそうならば、幼兒に成るべく諸種の實物を觀察し得べき機會を與へ、勿論込み入つた説明などは不必要であるが、面白半分いろゝの實際的知識を得させることも、上の組などでは極く必要と考へます。

○バルマー氏の保育法の基礎

としての發達の原理

同じ雜誌の十一月號に、表題の通りのバルマー氏の論文がある。元來「發達」といふことは簡單に考へれば、文字通り分つたことの様ですが、詳しく考へれば、種々複雑な論議を要することです。即ちベストロデ、フレーベル以來の「發達に従ふ教育」といふ言葉も、其の「發達」といふことの研究の進むに従つて、次第に複雑な内容を有することになる。たゞ一片の通り言葉として漠然と發達に従ふといふて居たのでは、實は餘り役に立たないのである。併し、それ等の詳しい論は別として、茲にはバルマー氏の書いて居る要點だけを、特に保育に關係のあることだけ次に挙げます。

氏曰く、發達といふ問題は幼稚園に關係しては、次の五つの注意すべき點に分かたれる。

(一) 凡そ發達なるものは、其の發達體の、其の

時までの一切の經驗の推積をもとにして、其の上に出來てゆくものであるから、保育の第一着として、初めて幼稚園へ來た時の幼兒の現狀を明かにして置かねばならない。即ち各幼兒が幼稚園へ來ない前から持つて居る遺傳、及び其の時までの經驗の種類や分量等を明かにせねばならぬ。

(二) 入園後與へらるゝ新經驗の中には、入園前の舊經驗と同一のものもあれば、異なるものもあるであらうが、それ等の中から、兎に角幼兒の興味及能力に適合し且つ更に發達させてゆく様のを選擇しなければならぬ。

(三) 次には其の選擇された諸經驗が、果してよく幼兒の發達力を増させ得る様に、最適切な與へ方をされなければならぬ。

(四) 尚ほ又その發達の結果が、かたより偏した發達でなくて、よく統一した、従つて充分圓滿のものであるといふことが肝要である。

(五) 最後に、以上のことを、常に吾々から幼兒

にしてやつて居る許りでなく、幼児自らをして、自分の發達性の意識を得、其の實現に適當なる方法を自ら撰擇し得る様に、即ち次第に自分で自分の發達をしてゆく様にならしめることを心がけなければならぬ。

バルマー氏は、尙之れについて詳しい説明を與へて居ますが、保育の實際上之等の簡條が如何なる事實を要求して居るかといふことは、大概御了解になつたことと思ふ。又既に御實行のことと思ひますが、之れ等の箇々の注意を、一つの「發達」といふ原理に統一して始終考へ居ることは、吾々の注意を一層明確ならしむるに効が少くないと思はれます。

小坊主が棒をひいても吉書城 (一茶)

書質の蜜柑みい——吉書城 (同)

摘 録

● 幼稚園教育 高島平三郎氏

幼稚園の効果

次には幼稚園の効果であります、先づ幼稚園は教育上効果があるといふ事を説く人の説を擧げて其次には害のあるといふことを説く人の説を擧げ最後に私の斷案を御話して諸君の御意見を伺ひたいと思ひます。

幼稚園の利益を説く人は色々ありますが、亞米利加のスタンレー、ホールが三十人の信用すべき小學校の教師に幼稚園の効果に就て尋れた結果を擧げませう、即ちホールは幼稚園から小學校に來た子供は一般の家庭から來た小供と如何なる違があるかに就て尋れたのである、然るに其三十人の教師中で四人は幼稚園から來たものも家庭から來たものも同じであると答へましたが、其の外の二十六人は次の十條の長所を擧げて居ます、第一には言語が非常に優つて居る、即ち言葉が自由であつて現し方も巧妙である、第二は手が巧である、第三は敏捷である、第四は觀察力に富んで居る、第五は唱歌が上手である、第六は數の觀念が明かである、第七は仕事をすることを愛する、即ち何か自分で拵へたり働いたりすることを好む、第八は清潔である、家庭から直ぐに來たものは汚ない事も平氣であるが、幼稚園から來た子供は清潔を好む、第九は禮儀をよく知つて居る、第十は羞にかまない、といふのであります、それから獨逸のアイゼナツハのヘーアワルト

El Heerwart は十二ヶ條を列擧して幼稚園から來た子供の長所を擧げて居ります、第一は幼稚園から來た子供は學校に必要な習慣を守る、例へばちつとして先生の言ふ事を聴くの類です、第二は

夏冬通して氣候に慣れて居つて健康が宜い、第三は仕事を喜んで困難なる準備に愉快な練習をなす、何かする時にも勞を厭はないでやる、第四は他の子供と交際して他の人の事に注意する、例へば斯うしたら他の人の邪覺になるであらう、斯うしたら他の人の爲に宜くなからうといふやうに注意する、第五は物事を取扱うに具か體的表情を形、數、色等に依つて現はすことが出来る、第六は物の名を覺へ言葉の意味を知る、家庭市場の材料用具の性質用法を知つて居る、これは何んで出来るものだとか何にするものどかといふことを知つて居る、第七は唱歌を覺る譜に合せてやる運動を知つて居る、第八は年齢及び心力相當の歴史の話を覺える、第九は手の作用に熟して居る、第十は眼が練習されて居つて物を見るものが精密である、第十一は感覺力が優つて居つて内界の關係が密である、即ち物が眼に觸れると直ぐそれが感覺となり知覺となつて現はれることが密である、第十二は幼稚園の子供は愛情友愛の空氣及び道德宗教の勢力中にあるから、それが又家庭に入つて家庭の調和をよくする利益があるといふて居るのであります、それから私が現在の日本の信用すべき學校教師に對して、幼稚園の長所に就て質問を致しまして、其意見を求めたのであります、その長所として擧げられたものは概ね次の通りであります、第一は入學の當初境遇の變化の少い爲が心身の疲勞が比較的少い、第二は言語が一般に優良である、第三は動作が敏活である、第四は巧みにかみが少い、第五は遊戲唱歌の素養がある、第六は技藝に巧

である、第七は概して諸感覺が發達して居る、第八は姿勢がよろしいといふ長所が擧げてあります。

幼稚園の非難

次には幼稚園に就ては非難を擧げて見ませう、之にも色々の説があります、幼稚園は絶対にいけないといふのもあり、目的が良い方法が良くない、若し之を改めれば良いといふ説もあります、又幼稚園は其の結果が良くないといふ點から非難する人もあります、先づ目的に就て申しますと茲に重大な問題はどうも幼稚園杯といふ者は母の天職を奪ふものである、子供の三歳から六歳位迄の間は、大事な時であつて家庭に於て母の溫き手に置かなければならぬ、それを毒の手から奪て大勢一緒にして教へるのは甚だ宜くないといふのであります、是は絶対に幼稚園はいけないといふ考であります、又子供の發達がそれに適さないといふのは一體人間の社會意識といふものはまだ三つや四つでは十分に發達して居ない、社會が發達しない者に共同に物をやらせるのは宜くない、故にもう少し年を取るのを待つてやらせるが宜いといふのである、又幼稚園のやうに子供の小さい時から色々な事をさせるのは身體を害するから絶対にいけないといふ人もあります、此身體の害になるといふ事に就ても色々の説があります、單に幼稚園の様なことをさせれば害あるといふのもありますし、又た此頃の所謂小兒病の多い時であつて最も色々な病氣が傳染し易い時であるから早く斯んな所へ子供を出すと病氣に罹るから宜しくないといふのもあります、是れは現在東京であつたことで私の知人杯と幼稚園に出した爲めに二人の子供を失つたというて悔で居る人

あります、以上は何れも絶対に幼稚園はいけないといふ説であります、次には相對的に目的がいけないといふのです、幼稚園の目的は良い事だが社會の何れの階級の子供をも絶対にやるべき處ではない、寧ろ中流以下の子供をやるべきであるといふのです、一體此の頃の子供は母の天職として家庭で保育するがよいが中流下では手が廻らぬから仕方なしに幼稚園の様に托するのである、その故手のよく行き届くものはいふ處へやる必要はないといふのです、

又方法の方から申しますとどうも今のやうなやり方は身體の發育を害する、子供が盛んに育つ時にちつと腰を掛けさせて置くやうなことはいけない、方法を變へなければならぬといふのがあります、それから又た物が限られて居て宜くない、而かもフレーベルの特殊の個人的の考へから出來た物をいつまでも使つて居るのはいけぬ、改良しなければならぬといふのもあり、又遊戲も社會的ではよくない、この頃の子供に共同的の遊戲をやらして居るのは間違つて居る、この時代の子供は個人的であるから個人的の遊びをさせなければならぬ、といふのもあります、それから又家庭と聯絡をさせて成るたけ家庭的にさせなければならぬに今の幼稚園は家庭的でないといひ或は自然に親しむといふことがフレーベルの主義であつたにも拘はらず、今の幼稚園は自然に接近させることが少ないといふやうな非難があるのであります、そのから又結果の良くない非難としては今日一般の幼稚園から小學校に來た者は(一)病的である、(二)不注意である、(三)不勉強である、(四)不謹慎である、といふの類が主なるものです、又私が我國現在の實際教育家から得た報告を概括して見ますと、

短所として挙げられて居ることは茲に概括して挙げたものの外に第一は一般にませて居る、第二は初期の成績良き割合に發達せざるものが多い、第三は學業と遊戲とを同一視し眞面目に勉強せず、第四は多辯である、第五は好奇心が薄い、第六は餘りに人に慣れ過ぎる、第七は遅刻缺席を何とも思はぬ、第八は不規律である、第十は知つた風をする、第十一は依頼心が多い、第十二は忍耐力が乏しいといふの類が主なるものであります、

先づ斯の如く色々の點を概括しまして、公平に判斷をして見ますれば、私は幼稚園は目的としては必ずしも非難すべきものではないと思ひます、併しこれは小學教育の如く國家が強制的に必ず兒童を茲に入らしめるといふ程のものではない、國家は獎勵の方針を取つて公立でも官立でも模範的に幼稚園を改良して一般に示すのは宜しいが、強制的に兒童を入園せしむべきものではないと思ひます、又假令目的は宜しいにしても方法は今後大に改良しなければならぬ、改良さへすれば今挙げたやうな非難を少くして完全な保育の効果を擧げることが出來ると思ひます、保育の結果に就いて利害の説が一致せぬといふのは、幼稚園其ものの性質よりも寧ろ色々の事情から來て居るのであると思ひます、例へば偶々良き幼稚園の保育を受けたものを扱へばその人は幼稚園の効果を良く見る、間違つた方法によつて保育を受けて來たものを扱へば今挙げたやうな色々の缺點を認めるのでありませう、今日の所我國に於ては幼稚園全般の利害に就いて實驗的に斷言することは難いと思ひます、つまり現在の幼稚園の效果に就ての非難は、目的が悪いのではなくして方法が良くないのであります、母の職を奪ふなどといふことは、大きな社會的問題で若し幼稚園がすべて

の家庭の幼児を母の手から親さしめるといふことを強制するやうでは宜くないことです、それでは實際に折角十分な家庭で兒童の教養に注意しやうと思ふことを妨げる事になります。

我國の幼稚園に對する希望

最後に我國の幼稚園教育に對する私の意見を申し上げますと、第一には保姆の養成といふことが必要である、總て良き教育を施さうと思つたらば、良き教師を得なければならぬのは申すまでもないこととて、小學教育が今日のやうに進んで來たのは色々の關係もありませうが小學校の教育が是も熱心に研究されて教員の教育に注意されたことが主なる原因です、保姆の教育を盛んにして保姆には自然科學を教へ、それから兒童の生理及心理の知識を得せしめることに重きを置き神話學及童話學を課し手工は自然物を利用して色々の物を拵へるといふ應用方面の研究を主として課し、さうして哲學を教へるが宜い、これは突飛の考のやうであります、教育者には哲學的智識が必要である、現に今日の幼稚園のやり方が色々に變つて來まして、或る幼稚園は唯實用を主として居るもあり或ものは心力を開發するといふことが主になつて居りますが、變化する何れも數學的根據から來て居るのであります、保姆は何も知らないで風潮のまに／＼従つて居りますが、これ等に對して自覺せしむるには必ず根本たる哲學を知らしめる必要がなると思ひます、第二には公立のものをもつと獎勵して少くとも一縣に二つなり三つなり立てなければならぬことにして、さうして模範を示すやうにしたい、全體の教育の一部にして總令幼児を必ず入れなければならぬといふ規定はないでもその發達

を獎勵するやうにしたいと思ひます、第三には衛生上の注意を十分にしたい、今日は色々の點に於て衛生の注意が足りないと思ひます、これ等は又機會がありましたならば醫學衛生上から論ずる人があるでありませうが、私等素人から見ても慥に今日我國の幼稚園は衛生上の注意が足らぬと思ひます、第四は設備及び保育場を改正することです、今までで幼稚園は唯だ模範的にやつて居つたので恩物がこれだけなくてはいかぬとか何がこれだけなければならぬとかいって、何所も千篇一律で變化といふものが殆どない、故に何所へ行つて見ても同じ事をして居るのです、是は色々研究し總てをなるだけ簡單にして幼児を室内に入れて置くことに努めて少くして外へ出す機會を多くし腰を掛けさせて置くことよりも、縱令室内に於てもなるべく運動の自由に出来るやうにするが宜いと思ひます、此等も今具體的意見を詳しく述べる事は出來ませぬが兎に角設備及び保育場を改良し運動場を本位として自然物に接近せしめ尙其保育法に就ても（是は保姆を養成すれば出來る譯であります）今日の狀態を大に改良したいと思ひます、最後に是は我文部省も常に注意されて居る様であります、保姆の位置を高める事です、保姆は今日小學校の教師と同じものに認めない有様であります、それは國家が幼稚園の教育を國家教育の組織の一部分に入れるか入れないかや曖昧であつた爲であります、宜しく小學校と同一にして保護し獎勵して行くことにしたら宜からうと思ひます、尙幼稚園の色々の主義などに就て申したかつたのでありますが、餘り時が掛りましたから略して置きます、以上は唯私の取調べました大體を御話致すに過ぎないのであります、（兒童研究）

雜 報

●本會常集會 昨年十二月十日東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て、本會常集會を開きました。來會々員六十餘名、中川會長の演説及醫學士唐澤光德氏の「學齡期に於ける傳染病に就て」と題する有益な講演がありました。之れは共に次號の本誌に掲載致します。尙常集會は單に講演を聞くといふ以外に會員互に語り合ふて懇親及研究を進める處に大なる利益があります。會員の方々の今後益多く御來會下さることを希望致します。

●本會幹事新任 本會は舊來役員の外先頃新に三名の幹事新任せられました。今左に新舊併せて列記して見ると左の通りであります。

會 長	中川謙二郎
主 幹	黒田定治
幹 事	飯沼シヅ
同 庶務	池田トヨ
同 會計	井村クニ
同 庶務	小關清

幹 事

會計	大關トヨ
同 庶務	和田藏
同 編輯	和田實
同 庶務(新任)	田中ふさ
同 會計	武井綱枝
同 編輯(新任)	倉橋惣三
同 庶務(新任)	安井哲
同 庶務	藤井利譽
同 庶務	福田ふく
同 會計	雨森 釧
同 庶務	下田たづ

●心理講習會 本會は昨年より二回講師高島平三郎氏を聘して兒童心理の講演を開きたりしが何れも熱心なる會員諸君の歡迎を受けて毎回滿員の盛況であつた。今回は其續きとして去十月中旬より毎金曜日午後三時半より東京女子高等師範學校第二講堂に於て青年期に於ける心理の講演を催ふした。集りたる會員は最熱心なる研究家三十餘名にして毎回電燈をつけて六時頃迄も講演せられて去る十二月二日を以て終了を告げたり。

▽寄稿募集△

●本誌は育児及び保育上の基礎的問題を研究すると共に直接参考になるべき實際上の経験を最大切と思ふのであります。その趣旨から、以後毎々育児及び保育の實際に關する課題を提出して、皆さんの御経験なり御意見なりを伺ひ度い積りであります。其の第一回として、皆さんの幼稚園でなすつておいでの

△△△△△ 新入園児の取扱ひ方

を伺ひ度ひと思ひます。新入園の幼児をやさしく巧に取扱つて幼稚園に全く慣れさせるまでには、多くの苦勞を要することであります。今や丁度その時期に近づいて居りますし、之れまでの皆さんの御實驗中、御成功談なり、又失禮ながら御失敗談なり、いづれも理窟や議論ではとても解決の出來ぬ此の問題の研究の爲に、心得て置く必要のある貴い御實驗を、お惜みなく澤山御發表願ひ度いのであります。締切は二月十日。

●それから、右と矢張り同じ趣旨で、本號から
△△△△△
保育の實際

の項を設けました。つまり皆さんの日々保育の實際の間に絶えまなく起つてくる出來事や、御感想や、いろ／＼の御工夫や、慣れては御自身夫れ程にもお思ひにならぬ事の中に、他の人には珍らしい大に參考になることが澤山ある。それを會員同志互に惜まず知らせ合ふといふ目的であります。こういうことが相互の爲に、どの位有益であるかは申すまでもないことと思ひます。それも、一つのまとまつた論文にでも書き上げるといふことはお忙しひ處度々も願へますまいが、いはゞ小さい箇々の御實驗を、どんなことでもそのまゝ伺はせて頂けば、それが結構なのであります。之れには勿論締切といふものはなし。いつでもお心づきの度毎にやさしい言文一致で、ふだんのお話のまゝを書いて送つて頂き度いのであります。もし又保育の實際に關し御疑問などがあつた場合、斯うして皆で研究すれば、良き解決を得られることと思ひます。